

平成31年度B日程
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて6ページで、問題は□一から□三まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受 検 番 号

--

□ 次の一～五の間に答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 秀逸な作品である。

2 意見が偏る。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 ユウビンキョクで手紙を出す。

2 日常生活をイトナむ。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を数字で書け。

【若】

(四) 「自分にしつかりした意見がなく、軽々しく他人の意見に同調すること」という意味をもつ四字熟語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 異口同音

イ 呉越同舟

ウ 付和雷同

エ 一心同体

(五) 次の短歌とその鑑賞文を読み、後の1～4の間に答えよ。

著作権保護のため掲載していません。

1 鑑賞文中の——線部1の「ので」は、ここではどのような接続の関係を表しているか。次のア↘エから一つ選び、その記号を書け。

ア 逆接 イ 条件 ウ 並立 エ 理由

2 鑑賞文中の——線部2の「あっ」は、「いいえ」や「おや」等と同じ品詞である。この品詞名を漢字で書け。

3 鑑賞文中の——線部3の「浮き彫りにする」は、ここではどのような意味で使われているか。その意味として最も適切なものを、次のア↘エから一つ選び、その記号を書け。

ア 鮮やかに際立たせる

イ 美しく飾って見せる

ウ 細部まで丁寧に描く

エ 自由自在に表現する

4 冒頭の短歌で用いられている表現についての説明として誤っているものを、次のア↘エから一つ選び、その記号を書け。

ア 体言止めを用いることによって余韻を生んでいる。

イ 対比をすることによって一日の長さを強調している。

ウ 口語で詠むことによって軽やかな印象を与えている。

エ 対義語の使用によって空間的な広がりを感じさせている。

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア〜エから一つ選び、その記号を書け。

ア 実在的

イ 実験的

ウ 実質的

エ 実用的

(二) 文章中から次の段落を抜いてあるが、文章中の ア エ の段落のうち、どの段落の直前に入れるのが最も適切か、記号で書け。

しかし、バブルはやがてはじける。

(三) 文章中の——線部 1 に「次々に田んぼを作っていくことは、無制限に貨幣を印刷しているのと同じことである」とあるが、筆者はここでどういうことを述べようとしているか。その内容を、次のような一文で説明するとき、 に当てはまる適切な言葉を、「生産」「価値」「物価」の三つの言葉を必ず使って、**四十字以上五十字以内**で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

コメが貨幣として機能する経済で次々に田んぼを作っていくことは、 状況になる
ということ。

(四)

文章中の——線部2に「それだけの人口を支えたのが『田んぼ』というシステムと『イネ』という作物である」とあるが、このことについて筆者はどのように述べているか。その内容を、次のように説明するとき、

・

に当てはまる適切な言葉を、それぞれ二十字以上三十五字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

日本の田んぼは、

。また、イネは、

。だから、ヨーロッパに比べると狭い面積なのに、たくさんの人口を支えることができたということ。

〔三〕 次の文章を読み、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

狐は靈妙なる者なり。予が平戸城下、桜馬場と云ふ処の士、屋鋪にて狐の火を燃すを見る。若士どもとり囲みて逐ひければ、¹其の人を飛び越えて逃げ去りたり。然るに物のおちたる音あり。これを見れば人骨の如き物あり。皆言ふ、これ火を燃せしものなるべし。取り置かば燃すこと能はじと。持ち帰りて屋内に置き、定めて取りに來らん、そのとき擒にすべしと云ひ合せて、障子を少し明けて待ち居たり。果して狐來りて窺ひ見る体にして、障子の明きたる所より面を入れては引くこと度々なり。人々今や入ると構へ居たるに、遂に屋内にかけ入る。待ち設けたる者、障子をしむれどもしまらず。其の間に狐は走り出でけり。皆疑ひて闕を見るに、細き竹を溝に入れ置きたり。それ故障子たたず。いつの間にか枯骨も取り返されたり。

〔「甲子夜話」による〕

(注) 靈妙なる…人間の知恵でははかり知れないほど優れた。

予…私。平戸藩藩主の松浦静山のこと。

能はじ…できないだろう。 定めて取りに來らん…きつと取りに來るだろう。

擒にすべし…生け捕りにしよう。 今や入る…今入るか。

闕…障子を開閉するためにつけられた溝のついた横木。 たたず…閉まらなかった。

(一) 文章中の——線部1の「逐ひければ」を現代仮名遣いに直して、——線部全部をひらがなで書け。

(二) 文章中の——線部2に「障子をしむれどもしまらず」とあるが、なぜ障子は閉まらなかったのか。その理由がわかる部分を、文章中から十二字でそのまま抜き出して書け。

(三) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 狐の落とし物を拾った士たちは、狐を生け捕りにして、その落とし物を使ってどのようなことをするのか実際にさせてみようかと企てていたが、用心深い狐は枯骨を落とし物の代わりに残して去って行った。

イ 狐の落とし物を拾った士たちは、狐がこれを取り返しに來たところを生け捕りにしようとして構えていたが、狐の行動が予測を上回っていたので、捕まえることはできず落とし物も奪い返されてしまった。

ウ 狐の落とし物を拾った士たちは、落とし物をおとりにして狐を屋内に誘い込み生け捕りにしようとしたが、障子の隙間からあまりに頻繁に中の様子を窺ったために、狐に気づかれ逃げられてしまった。

エ 狐の落とし物を拾った士たちは、このようなものを道具にする狐を憎み生け捕りにして懲らしめようとしたが、自分たちの連携がうまくいかず狐を捕まえることも落とし物を守ることもできなかった。